

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
呼吸器センター長 兼 呼吸器外科部長	桂 浩

—概要—

当科は、主に、肺、縦隔、胸壁などの外科疾患を担当し、日本呼吸器外科学会の認定修練施設として、泉佐野市、貝塚市、泉南市、阪南市、熊取町を中心に泉南地域の住民に対し、呼吸器外科医療を質の高いレベルで提供することに努めている。

当科は、大阪大学呼吸器外科教室の関連施設ではあるが、前々年度来、専従医は部長1名のみ診療体制となっている。そのため、診療の中心である手術に際しては、可能な限り低侵襲手術を維持すべく、原則、大学からの医師の応援を要し、待機的手術とし、院内・外からの臨時・緊急症例、重症例の対応は制限せざる負えない状況となっている。

このような診療体制ではあるが、手術対応の可能例では、看護スタッフなどの協力体制により、ほぼ全患者にクリニカルパスを用いて、高品質で均一な医療提供ができるよう心掛けている。

呼吸器センターとしての診療体制、現状についても付記しておく。肺腫瘍内科は、前年度来近隣医療機関からの患者の受け入れが不可能な状態で、結果、必然的に当科へ紹介症例も減少している。また、気管支鏡検査を含む関連処置、そして、化学療法などの加療はできないため、特に、腫瘍性疾患の診療体制には、当科の現状と相まって、大きく制限せざる負えない状況となっている。

一方、呼吸器内科に関しては、これまで同様、近畿大学、大阪大学の寄付講座より派遣された非常勤医での外来診療のみで、常勤医は不在であり、依然、入院対応はできない状況である。外来診療は、従来通り、主に、近隣医療機関からの間質性肺疾患、慢性咳嗽、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、などの診断、喘息患者への病診連携パスなどを利用した長期管理、そして、肺癌二次検診例の対応を担当している。院内活動として、1/週のRST(Respiratory Support Team)回診の中心となり、人工呼吸管理患者から重症呼吸不全患者への診療支援、相談などに対応し、看護師、理学療法士、工学士とともに、チーム医療を行っている。

—実績—

2016年4月1日～2017年3月31日

疾 患	症例数
肺癌	4
転移性肺腫瘍	5
縦隔腫瘍	1
炎症性肺疾患	0
膿胸	1
嚢胞性肺疾患(含 気胸)	14
胸部外傷	0
その他の呼吸器手術	0
全手術総数	25
胸腔鏡下、または併用手術	23
手術死亡	0

参考)手術死亡(術後30日以内死亡):0.4%

(2009年全国調査、肺癌例)

—今年度の成果と反省点—

前々年度からの当科の専従医の減少などによる診療体制の制限継続に加え、前年度後半からの関連科の診療体制により、一層、腫瘍関連疾患への対応を制限せざるを得なくなった。

—来年度への抱負—

新年度からは、専従医は1名のまま、担当医師の交替がある。改めて、関連科との連携構築は当然であるが、引き続き、より早急な、専従医一人体制の打開に加え、関連科も含めた診療体制の回復、充実に期待したい。